沖縄報告特別版

2017年8月　沖縄K・S

１年の闘いを振り返る（写真を中心にした報告）
①高江
②県国辺野古裁判
③辺野古
④辺野古・高江弾圧裁判
⑤オスプレイ

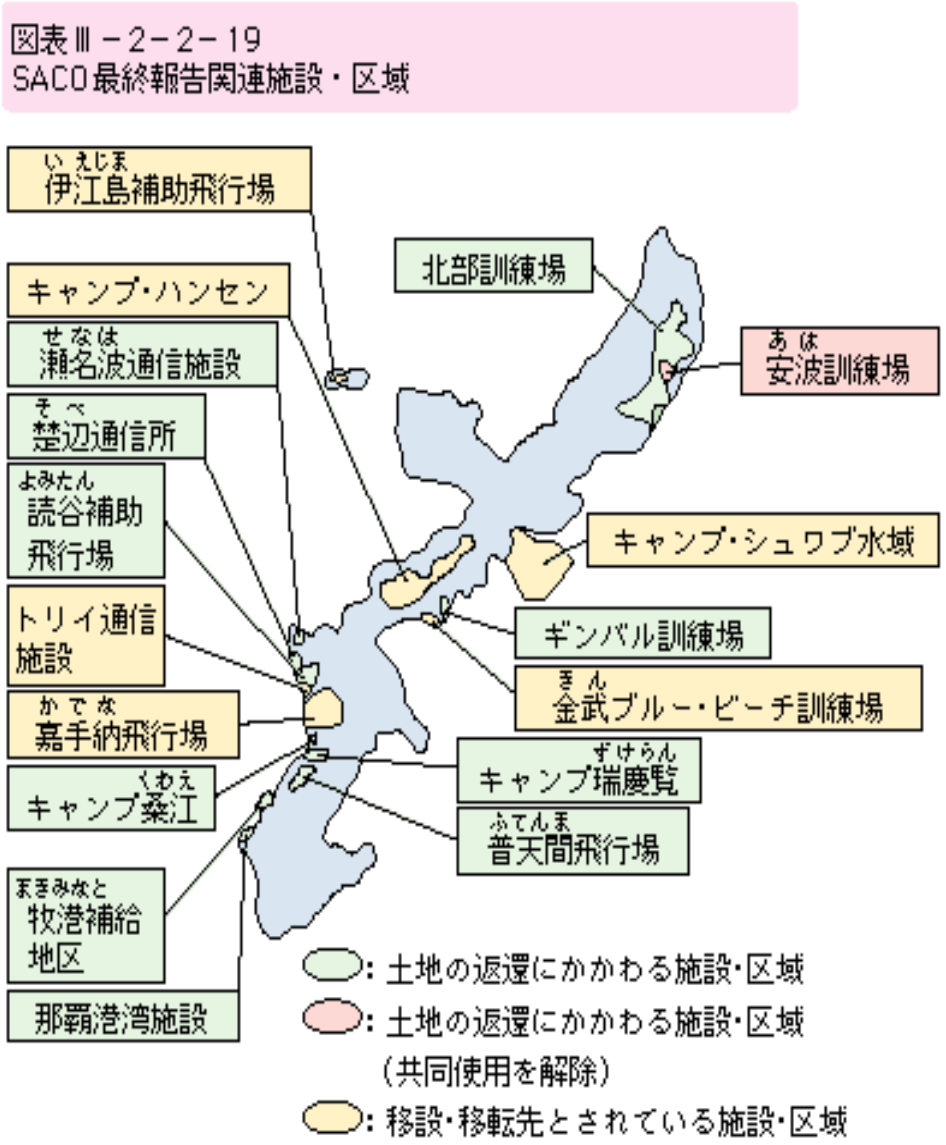
辺野古新基地は阻止することができる！

１年の闘いを振り返る①高江

- 始まりは日米両政府の1996年１2月のSACO（沖縄に関する特別行動委員会）最終報告

①嘉手納以南の米軍基地の返還と中北部への集中
　→すべて県内への移転のため、返還が進まない。
②普天間基地の返還と海上施設の建設
　→紆余曲折を経て辺野古新基地建設に。21年目の闘い
③北部訓練場の一部返還とヘリパッドの新設および新たな水域の
　提供→11年目の高江の闘い

SACO合意の図


図表Ⅲ－2－2－19
SACO最終報告関連施設・区域
伊江島補助飛行場
キャンプ・ハンセン
瀬名波通信施設
楚辺通信所
読谷補助飛行場
トリイ通信施設
嘉手納飛行場
キャンプ桑江
牧港補給地区
那覇港湾施設
北部訓練場
安波訓練場
キャンプ・シュワブ水域
ギンバル訓練場
金武ブルー・ビーチ訓練場
キャンプ瑞慶覧
普天間飛行場
：土地の返還にかかわる施設・区域
：土地の返還にかかわる施設・区域
（共同使用を解除）
：移設・移転先とされている施設・区域

全面返還
一部返還
安波訓練場
(479ha)
北部訓練場
(3987ha)
瀬名波通信施設
(61ha)
楚辺通信所
(53ha)
ギンバル訓練場
(60ha)
読谷補助飛行場
(191ha)
キャンプ桑江
(99ha)
キャンプ瑞慶覧
(83ha)
牧港補給地区
(3ha)
普天間飛行場
(481ha)
那覇港湾施設
(57ha)

1995年の二つのできごと

平和の礎

少女暴行事件抗議集会

2016年12月21日沖縄タイムス

高江ヘリパッド建設の内容

①亜熱帯・やんばるの森は生物多様性の宝庫「東洋のガラパゴス」
②森を切り拓き、高江周辺に、6か所のオスプレイ仕様のヘリパッド

2016年7月10日参院選（伊波洋一当選）の翌日から、本土各地から500人の警察機動隊導入

警察機動隊と防衛局職員が車両・テントの強制撤去に向けてN1ゲート前を徘徊し始めた。
防衛局が掲示した「撤去」指示の期限は7月21日。

オスプレイパッド建設阻止緊急集会に1600人
参院選当選の伊波洋一さんもあいさつ（7.21）

160台の車両と200人以上の座り込みに対し、7月22日早朝、警察機動隊が襲撃。非暴力抵抗の貫徹（7.22）

非暴力主義の下、身を挺した極限までの抵抗。
「我われは非暴力だが無抵抗ではない」（7.22）

テントと車両が強制撤去され、ゲートと鉄柵が設置されたN1オモテ。高江の森が姿を変えた。（7.26）

警察の戒厳令下でも連日屈しない闘いが続く（N1オモテ）

7.26

8.3

次の攻防の焦点となったN1ウラ（7.26）
防衛局の掲示の期限は8月5日。県警とガードマン。

N1オモテに続く森の旧道（N1ウラ）

N1ウラの決起集会と泊まり込みの車列（8.5）

N1裏テントでの早朝集会と
資材搬入に抗議する行動（8.8）

国頭方面からの県道に座り込み
車両を排除する警察機動隊（8.31）

メインゲートに至る高江橋を車両バリケードで封鎖。（9.7）連日挑戦

高江橋の座り込み（9.10）
伊江島からのロシア製ヘリが資材運搬

やんばるの森で唯一紅葉するハゼノキ。国頭からの砕石搬入に抗議しして道路上に座り込み（9.14）

N1ゲート前での座り込み。連日、全県・全国からたくさんの人々が結集（9.17）

抗議の中、警察機動隊に守られてダンプが資材搬入。（9.21）

N1ゲート前での抗議（9.23）

9.22から北部訓練場内での抗議行動が始まった。H地区への運搬道路で作業員に説得活動（9.29）

N1ゲート横の作業ヤード（砂利集積場）に入り、座り込み。作業中断（10.1）

G地区ヘリパッド建設現場で作業が始まる。作業員に説得活動。沖縄防衛局が登場（10.5）

宇嘉川河口と流域。SACOにより新たに米軍に提供された。上陸訓練場になる（10.8）

N1裏テントでの早朝集会。訓練場内の作業ヤードでの抗議行動。（10.14）山城さん逮捕は10.17

N1ゲート入り口の斜面で。（10.18）
この日、大阪府警機動隊員の「ボケ、土人が」「黙れ、シナ人」発言が出た。

H地区ヘリパッド建設現場。
旧の鉄条網よりすごい有刺鉄線。触れただけでスパッと切れる（10.27）

H地区ヘリパッド。竹はオスプレイからの熱風から森を守るとして防衛局が植えたが、ほとんど枯れかかっている。ひどい赤土汚染（11.4）

宇嘉川河口からG地区ヘリパッドに至る米軍歩行ルートの建設現場。防衛局職員の向こうに続くところにヘリパッド建設現場がある（11.7）

宇嘉川河口での抗議行動。森の中の道なき道を行き、河口に降りて行った。5時間の攻防（11.16）

N1（A、B）ヘリパッド建設現場。二つのヘリパッドがつながっている。50人余で、約2時間にわたり占拠（11.26）

N1ゲート前での座り込み。全国から350人。ゲート封鎖（12.3）

県民会議主催のゲート前集会。ゲート前を占拠、資材搬入を阻止（12.10）

まやかしの返還式典に、急な雨の中、350人が抗議。万国津梁館に至る国道58号線の交差点。菅たちの乗った車が猛スピードで通過（12.22）

高江座り込み10周年報告会に350人（東村）。アーサー・ビナードさん講演（6.25）

N1ゲート前の非暴力徹底抗戦から1年。
高江の闘いは続く。テントに毎日詰める住民の会。
近くの斜面に大きな横断幕（7.22）

1年の闘いを振り返る②辺野古裁判

＜日米両政府の新基地建設＞

- 2012年12月、安倍政権発足。2013年2月、オバマ・安倍会談。
- 2013年3月、沖縄県に対する埋立承認申請。
- 2013年12月、仲井真前知事が埋立承認。

＜日米両政府に対する沖縄の民意＞

- 2014年1月、名護市長選挙で稲嶺進市長が再選。
- 2014年11月、沖縄県知事選挙、翁長知事当選。
- 2014年12月、衆院選沖縄４選挙区で辺野古反対派当選。
- 2016年6月　県議会選挙で翁長知事支持与党が多数派
- 2016年7月　参院選沖縄選挙区で伊波洋一さん当選

2015.10.13翁長知事による埋立承認取消から2016.12.20最高裁判決に至る攻防

①2015.10.13翁長知事による埋立承認取消→11.17国の代執行訴訟。

②10.28国交相の執行停止に対する12.25県の抗告訴訟。

③12.24係争委の却下に対する県の不服訴訟。以上3つの裁判の並立

- 2016.3.4和解

①国は代執行訴訟を取り下げ県は係争委不服訴訟を取り下げる

②国は、承認取消に対する審査請求と執行停止申し立てを取り下げ、埋め立て工事を中止する

③国と県は地方自治法に定められた本来の手続きにそって訴訟をすすめる

- 2017.7.22国交相による是正の指示に従わない県に対し政府が違法確認訴訟の提訴→9.6違法確認の高裁判決→沖縄県の上告→12.20最高裁判決

違憲確認訴訟第1回口頭弁論に1500人。国会議員6人も参加（2016.8.5）

最高裁判決（2016年12月20日）の屁理屈

- 12月20日、最高裁第2小法廷は沖縄県の上告を棄却。

①公有水面埋立法の「国土利用上適正且合理的ナルコト」という「第1号要件に適合するとした前知事の判断に違法等があるとはいえない」

②公有水面埋立法の「環境保全及災害防止ニ付十分配慮セラレタルモノナルコト」との「第2号要件に適合するとした前知事の判断に違法等があるとはいえない」

③埋め立て承認取り消しは、「違法である」

④沖縄県は国交相の是正の指示に従い埋立承認取り消しを取り消さないことは「不作為の違法」に当たる

7.24　工事差し止め訴訟と仮処分申請

7.14県議会決議　賛成　24　社民・社大・結連合、おきなわ、
共産の与党会派
反対　17　自民、維新
退席　 4　 公明
訴訟費用　517万2千円　補正予算可決

2017年7月24日、那覇地裁に提訴「3月31日で前知事の埋立承認は期限切れ。埋め立て工事は県漁業規則に違反。工事を止め県と協議を」「判決まで仮処分」→第1回口頭弁論は10月10日

辺野古新基地建設（上空図）

新基地の詳細

沖縄県Q&ABook　P27

- 生物多様性の海。

  沖縄県によると5806種。内1300は新種の可能性。
- 大量の土砂投入。2100万㎥。
- 滑走路、軍港、弾薬庫を兼ね備えた海兵隊の総合基地。

2016.11.17～22　沖韓のダイビングチーム

1年の闘いを振り返る③辺野古
防衛局の海上工事再開に抗議。（1.4）

雨の中、工事用ゲート前での座り込み。県民総行動に400人（1.5）
稲嶺市長「ケンポーの上にアンポーがある」

通称レジャービーチ前でのカヌーの抗議行動。防衛局はフロートを張る準備（1.7）

座り込みに200人。VFPなど米国30人参加。第1ゲート前では米軍車両に抗議（1.14）

米海兵隊の上陸訓練。一般道路は通行止め。左にキャンプ・ハンセン。道路を横切り、宜野座村潟の海岸へ。（1.16）

フロートにつけられた鉄パイプにロープ。抗議船が海保に拘束された状態（1.19）

警察機動隊による力ずくの座り込み排除。毎日くり返される。（1.21）

ゲート前座り込みには歌も踊りもある。辺野古ネーネーズとキム・ギガンさん（1.25）

訪米に出発する翁長知事、稲嶺市長、呉屋会長一行を激励する壮行会。約100人が集まった那覇空港（1.30）

うまずたゆまず続けられるゲート前座り込み。米軍フェンスに張り付けられた横断幕（2.1）

辺野古崎から長島を結ぶフロートには緑のネット。キャンプ・シュワブの建物越しに見えるのが辺野古岳。浜のテントに来る人びと（2.3）

訪米を終えて空港に到着した翁長知事をはじめ訪米団を迎える100人余の人々。報道陣も多い（2.5）
知事「訪米は3回目、手ごたえは最もいい」

大浦湾に登場した新型海底探査船「ポセイドン１」とクレーン台船。ほかにスパッド台船。
浅場、中間、深場と分担（2.6）

韓国の学生たちがゲート前でダンスを披露。海外からの訪問も多い。
第1ゲート前の抗議（2.9）

ゲート前座り込みは時々デモ行進し、キャンプ・シュワブの第1ゲート前で抗議。軍警が前面に出てくる（2.11）

沖縄拘置所・裁判所前での「早期釈放要求」スタンディングは毎日続けられた。
山城夫人も率先して道路に立った。（2.13）

ゲート前座り込みに集まる全国各地からの参加者。
関ナマのキャラバン隊（2.15）
第2ゲートでは米軍の弾薬運搬に抗議の座り込み。

カヌー22艇・抗議船10隻による海上パレードに呼応して、瀬嵩の浜では300人の連帯集会。（2.18）

毎週金曜日朝に行なわれる嘉手納ピースアクション（2.24）第1、第5ゲートを中心にアピール。

山城博治さんたちの即時釈放を求める大集会に2000人。県庁前までデモ（2.24）

ND（新外交イニシアティブ）シンポジウムに400人。猿田佐世弁護士、半田滋さんなどが辺野古に代わる選択を提起。（2.27）

水曜集中行動に250人。雨が降り、資材搬入の動きがないと見て、テントに移動して座り込み集会を継続。終日資材搬入なし（3.1）

3月4日はサンシンの日。ゲート前でも400人集まりフェスティバル。終日搬入なし。稲嶺市長もサンシン演奏。若者たちのパフォーマンス。

雨の中の拘置所・裁判所前でのスタンディング。抗議と激励（3.6）
「山城さん、稲葉さん、添田さん、頑張って」

資材搬入のための機動隊の警備は乱暴。毎日のようにけが人が出る。機動隊員に押されて歩道の段差に倒れた女性。頭を強打（3.11）

宜野座村潟原での水陸両用戦車の上陸訓練が行われたのに合わせ、オスプレイと米軍車両（3.15）

3月と言っても海上はまだ寒い。天気が悪ければなおさら寒さが身に染みる中、フロート付近で監視を続けるカヌーチーム（3.21）

ゲート前を訪れた東京の若者。
都内の大学生とのこと。（3.22）

違法な埋立て工事の即時中止を求める県民集会に3500人。翁長知事が埋め立て承認撤回を明言（3.25）

ブロック台船と海保の巡視船（3.28）
汚濁防止膜を固定するブロック投下に抗議して、
フロートをこえる。巡視船は沖に常時停泊。

2017年4月1日に座り込み1000日を迎えた。ゲート前集会に600人（4.1）

海上での監視と抗議が続く。ODBの紫の旗を掲げて作業する業者。
キャンプ・ハンセンに降り立つオスプレイ（4.3）

ゲート前に200人。終日工事車両STOP。第1ゲートではナンバープレートのない米軍水陸両用戦車に抗議（4.5）

大型テトラポッドを製作中。生コン車2台で一個作る。
大浦湾に設置された汚濁防止膜（4.14）

座り込み排除の後に、米軍フェンスと警察車両・機動隊の壁に囲い込み。排ガス攻撃。（4.18）

ゲート前水曜行動に250人。終日工事車両STOP。
毎日朝一で発言する安次富浩さん。
南風原島ぐるみがあいさつ（4.19）

雨のゲート前で挨拶する関東からの参加者
（4.23）
ジュゴンの見える丘から見た大浦湾。

ゲート前は毎日が交流。
発言しているのは那覇島ぐるみバスと南城市島ぐるみ。水曜250人。終日STOP（4.26）

4月25日から始まったＫ９護岸造成現場でカヌーチームが11艇、船2隻で抗議行動。波が高く風が強い海で、カヌーはまるで木の葉のよう（4.28）

ゲート前県民集会に3000人。1952年4.28と2016年の4.28。女性暴行殺人の犠牲者を追悼して喪服姿の参加者も目立った（4.29）

ゲート前座り込み集会に加わらず、歩道上から通行の車にプラカードでアピール（5.1）
県警はこの横断幕撤去に執着。

K9護岸でのカヌーによる監視と抗議。
フロートの中は、マリン・セキュアリティと各種工事船、海保の高速ゴムボートでいっぱい（5.2）

平和市民連絡会20人が沖縄県に「承認撤回」を申し入れ。県側は辺野古新基地問題対策課の多良間課長が対応（5.9）

ネイティブ・アメリカンを含む米国からの参加者5人。マイクをとるのは鴨下僧侶（5.10）
MP―軍警の車両の横で待機する警察機動隊

5･15平和行進の結団式（5.13）
韓国KIPFのソン・ミヒさんが「共にアジアの平和を」と連帯挨拶。午前は金城実アトリエ訪問

瀬嵩の浜で開かれた5･15県民大会。2200人参加。韓国からの40人の訪問団（5.14）

K9護岸の作業現場のフロートは2重にされたが、
カヌーチームは乗り越えて中に入っていく。
岸には軍警、海保、ガードマン（5.18）

水曜集中行動に200人。終日STOP。救護テント撤去に執拗な県警。
大阪からの参加者（5.24）

環境破壊を許さないゲート前県民集会に2000人。
衆議院議員4人参加。参院の2人は京都と静岡へ。
終日資材搬入なし。（5.27）

土曜集中行動に200人。土曜も強制排除が始まる。昼、午後2回の排除と搬入（6.3）

朝から排除―資材搬入。道交法・公防で連続する一泊逮捕。この日は第2ゲート前で「道交法」逮捕。第1ゲート前で座り込み抗議（6.6）

国会行動に連帯した辺野古現地集会に1800人。集会後、強制排除ー資材搬入（6.10）

雨中のゲート前土曜座り込みに200人。2回の排除と74台の資材搬入（6.17）

連日くり返される強制排除ー資材搬入。「道交法違反で逮捕」の脅しにせず、アピール行動が続く（6.21）

6月23日は慰霊の日。大浦崎収容所で300人以上死亡したが、遺骨調査もされていない。
テントでの昼食風景（6.24）

座り込み参加者の駐車場。70~80台駐車可。送迎車が毎日2~3台運行。
妨害にやってくる右翼の街宣車（6.24）

ゲート前座り込みに200人。午後2回の資材搬入、
14台のダンプ進入。
工事用ゲートから第1ゲートまでデモ行進（6.28）

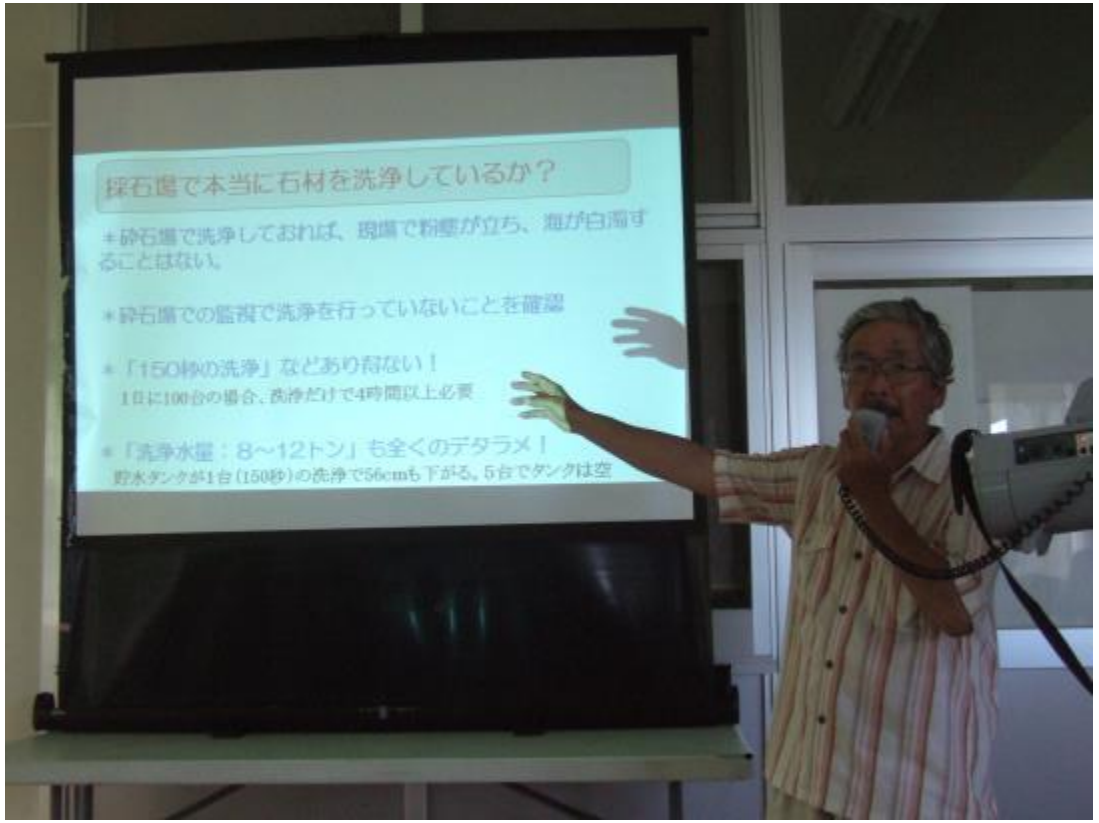
松田ぬ浜の米軍フェンスは横断幕の展示場。K1護岸付近の取り付け道路の着工に抗議。フロートを何度もこえて、海保と対峙（6.29）

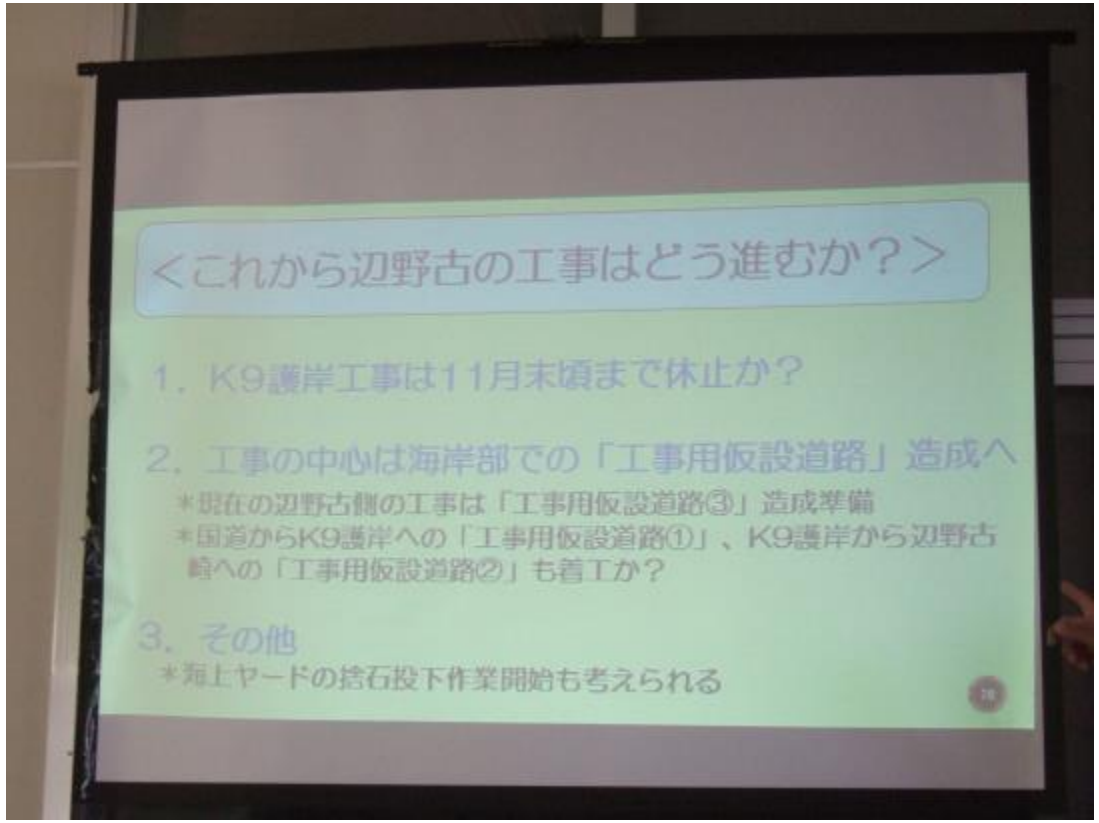
この日から高江の工事も開始。辺野古、高江。二つの現場での闘いが続く（7.1）

米軍フェンスに横断幕を張り付け。帰りに取り外す。水木に救護班を全国から派遣（7.5）

松田ぬ浜から、炎天下の海上行動に出るカヌーチーム。カヌー13艇、抗議船2隻。（7.7）
ドクロの後ろのコンクリート・プラント（7.13）

辺野古集落での学習会に50人。北上田さんが力説「工事は見せかけ。実情は絶望的困難」（7.8）
各地の島ぐるみが活発に学習会、映画会を開催。





ゲート前水曜行動に150人。米国PBSが取材、9月に放送。搬入は砕石だけでなく、鋼材、コンクリート、ユンボ等、多様だ。（7.19）

女性暴行殺人の死体遺棄現場。事件から1年3か月。
事件は風化していない。
名護署前で読谷村の男性の釈放歓迎集会（7.21）

キャンプ・シュワブを包囲する‘人間の鎖’に2000人。工事用、第1，2，3の4つのゲートを封鎖。（7.22）

沖縄駐留の米海兵隊基地

キャンプ・バトラー　/キャンプ・バックナー
キャンプ・キンザー
キャンプ・レスター
キャンプ・フォスター
キャンプ・コートニー
キャンプ・ハンセン
キャンプ・シュワブ
キャンプ・ゴンザルベス
　　その他に、普天間飛行場、伊江島飛行場

沖縄の海兵隊基地には、バトラー少将を除き、沖縄戦で死んだ兵士の名前が付されている。

- スメドリー・バトラー少将
- エルバート・キンザー伍長
- フレッド・レスター一等兵曹
- ウィリアム・アドルバート・フォスター海兵隊一等兵
- ヘンリー・A・コートニー少佐
- デール・マーリン・ハンセン海兵隊二等兵
- アルバート・アーネスト・シュワブ一等兵。1945.5.7死亡
- ハロルド・ゴンザルベス一等兵

7・25海上大行動。カヌー71艇、抗議船9隻、合わせて150人が海上座り込み、アピール行動。
現場での工事はナシ（7.25）

7.25海上行動に寄せられた世界からのメッセージ。
アフガニスタンの子ども「沖縄に米軍基地はいらない」。
韓国「海が泣いている。戦争基地工事を中止せよ」

全長100ｍをこえるゲート前テント。太陽の日差しを避ける。
防衛局が新たに設置した監視カメラ（7.29）

水曜行動に150人。終日県警との攻防。
弁護士がゲート前での人権侵害の実態調査（8.2）

1年の闘いを振り返る④辺野古・高江弾圧裁判

- 逮捕・起訴容疑

①2016年1月、キャンプ・シュワブゲート前でのブロック積み
　「威力業務妨害」～山城さん、稲葉さん

②2016年8月、北部訓練場N1裏での防衛局のテント撤去に対する抵抗
　「傷害」「公務執行妨害」～山城さん、添田さん、Yさん

③2016年10月、N1オモテ横の作業ヤードでの有刺鉄線切断
　「器物損壊」～山城さん

・5か月の勾留、接見禁止。保釈後の行動制限。

3.17第1回公判。山城さんたち3人が無罪訴え。地裁前の事前集会に500人。
山城さんは翌日保釈。

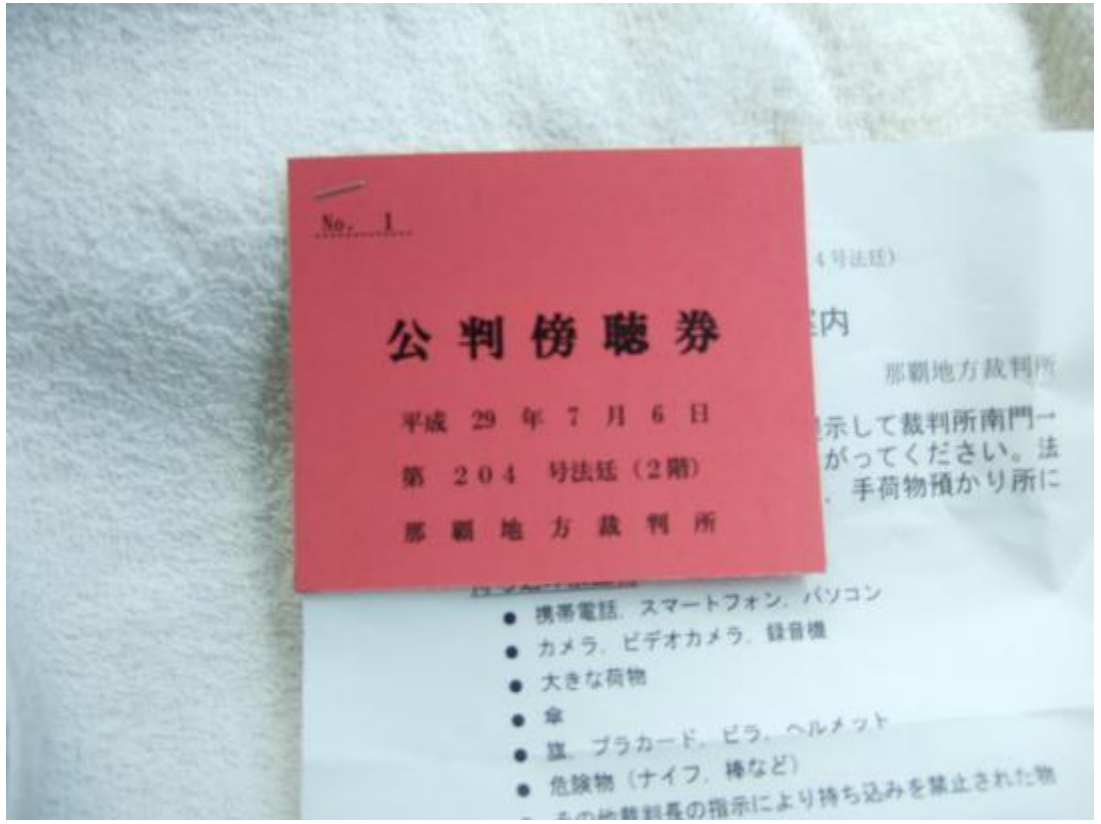
3.27第2回公判。保釈の山城さん、稲葉さんも参加。城岳公園での事前集会に150人。（3.27）

4.17第3回公判。
防衛局職員がついたてをして「傷害を受けた」証言。事前集会に250人。

5.8第4回公判。高江N1ウラの件で、山城さん、添田さんが出廷。事前集会に200人。
199日勾留の添田さんもあいさつ。

那覇市での6.3裁判闘争報告集会に250人。「ねつ造だ」
山城、稲葉、添田の3人も元気に登場。

7.6第6回公判。事前集会に50人。分離のY牧師と整形外科医の2人が証人として出廷して証言。
「職員の要望で全治2週間」の診断書を書いた。（7.6）



Y牧師に不当な有罪判決（7.27）

- 検察の求刑は、「共謀」を捏造、懲役1年6か月。
- 裁判所の判決は、検察の言い分を認め、懲役1年6か月、執行猶予3年。

山城、稲葉、添田さん3人の裁判は、月3回のペースで、9，10，11月の日程が決まっている。

1年の闘いを振り返る⑤オスプレイ

- 2013年1月、「建白書」をもって上京（オール沖縄）
- オスプレイ配備に反対する沖縄県民大会実行委員会、沖縄県議会、沖縄県市町村関係４団体、市町村、市町村議会の連名において建白書を提出。

１．オスプレイの配備を直ちに撤回すること。及び今年７月までに配備されるとしている12機の配備を中止すること。また嘉手納基地への特殊作戦用垂直離着陸輸送機CV22オスプレイの配備計画を直ちに撤回すること。
２．米軍普天間基地を閉鎖・撤去し、県内移設を断念すること。

オスプレイ配備反対
2012年県民大会に10万人。

12月13日夜、空中注油中のオスプレイが名護市安部集落沖の海岸に墜落。日本政府は「不時着水」。乗員3人脱出、2人負傷とのこと。

住民が自主的に行なった砕け散った部品の回収。
米軍は大きなものだけ回収し、後を放置していた。
安部集落の浜（12.25）他にもいろいろ。

「空飛ぶ棺桶」オスプレイの死亡事故。

ハリアー、F18と共に米軍の3大事故機。

- 1992年　エンジン出火、墜落。7人死亡。
- 2000年　制限越えた降下率で墜落。19人死亡。
- 2000年　操縦不能になり墜落。4人死亡。
- 2010年　アフガニスタンで墜落。4人死亡、16人負傷。
- 2012年　モロッコで墜落。2人死亡、2人重傷。
- 2014年　強襲揚陸艦を離陸直後、動力喪失、墜落。1人死亡。
- 2015年　ハワイ州オアフ島の空軍基地に墜落。2人死亡。
- 2017年　オーストラリアで揚陸艦に着陸しようとして墜落。3人死亡。

＊これまでの死亡者8件42人。

日米両政府・沖縄県の考え方

- ニコルソン4軍調整官。2017.8.8

　「世界中で飛んでいる。沖縄もそれと同列の考えだ。軍の方針でやっている」

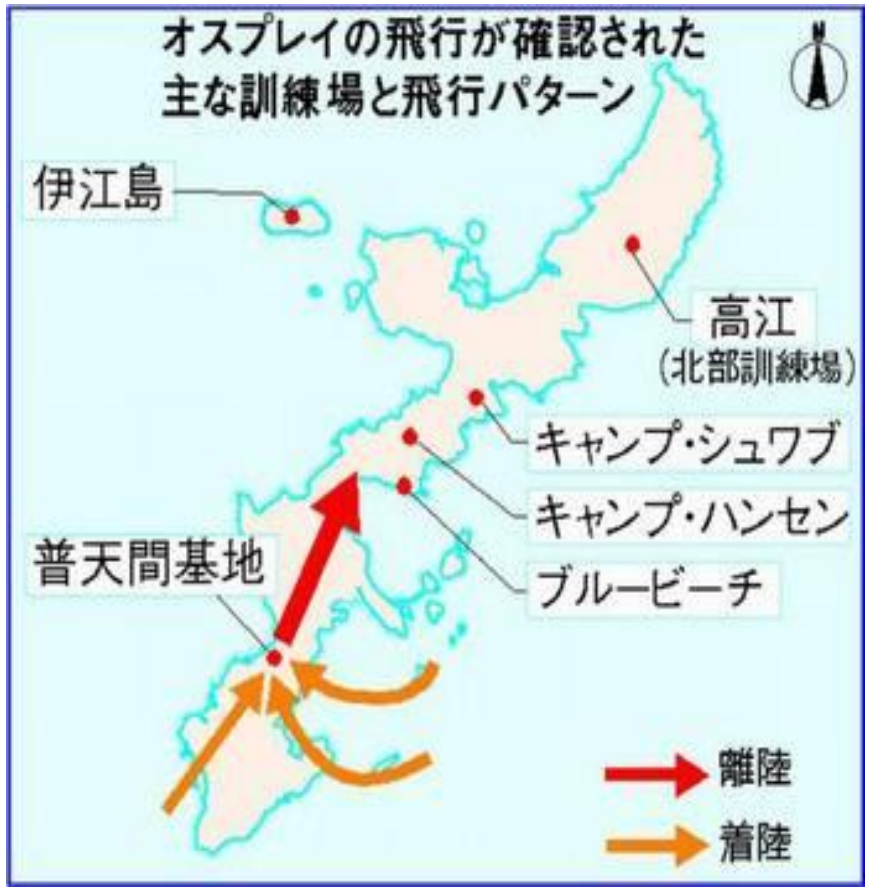
- 小野寺防衛相。2017.8.6

「米軍に国内でのオスプレイの飛行を自粛するよう申し入れ」「安全面に最大限配慮するよう要求」→飛行容認。北海道での合同訓練に参加。

- 翁長知事。2017.8.7

「日本政府には当事者能力がない。国民を守る気概があるのか」「事故は起こるべくして起きた。とんでもない飛行機だ」

沖縄と日本全国の
オスプレイ訓練ルート



国際世論への訴え

- ND(新外交イニシアティブ)の提言～米海兵隊の沖縄駐留は必要ない。
- 沖縄、東京、大阪だけでなく、アメリカでのシンポジウム。
- 7月12日、ワシントンで、猿田佐世弁護士、東京新聞の半田滋さん、ジョージ・ワシントン大のマイク・モチヅキ教授、屋良朝博さんが参加。

- 山城博治さんが国連人権理事会で90秒のスピーチ。

「ハイサイ、チューウガナビラ。私は沖縄における米軍基地による人権侵害に対し平和的な抗議運動を行なっている山城博治です。

　私は日本政府が人権侵害を止め、新しい軍事基地建設に反対する沖縄の人々の民意を尊重することを求めます」

8.12翁長知事を支え辺野古に新基地を造らせない県民大会。炎天下に45000人。奥武山陸上競技場

プラカード・アピール「NO辺野古新基地」「我々はあきらめない」と
集会の最後に、手をつないだガンバロー三唱

8.16～24の日程でアメリカ西海岸を訪問する訪米団。伊波洋一さんを団長に、壇上に並ぶ。
米国ピース・アクションのポール・マーティンさん。

訪米団の行動　8月16~24日

＜参加者＞　伊波洋一団長、糸数慶子副団長、呉屋会長、高里鈴代さん、桜井国俊さん、玉城愛さん、大城悟平和運動センター事務局長、瀬長美佐雄県議、比嘉京子県議、東恩納琢磨市議、比嘉瑞己県議、大城紀夫連合沖縄会長、吉川秀樹さんほか、若者多数、計21人

＜訪問地＞アメリカ西海岸

＜日程＞8月16日夜。カリフォルニア州のウチナーンチュが経営する食堂で夕食交流会。8月19日、APALA（アジア太平洋系アメリカ人労働組合）の25周年大会に参加。全米に20の支部と66万人の会員。伊波さんが発言し、決議採択（①沖縄との連帯、②大統領や議員へ新基地NO!の意思を伝える、③全米の労組に沖縄の支援を訴える）。

国連人権理事会特別報告者デビッド・ケイさんとの懇談。下院議員との面談。米軍基地の視察。

辺野古新基地は阻止することができる！

①沖縄防衛局ー埋め立て工事の行き詰まり

・埋め立て工事はアメリカ政府によると、3年の遅れを見せている。日本政府はうろたえて否定しているが、マティス国防長官は普天間返還の期日について、現在の日米合意「2022年度またはその後」から「2025年度またはその後」に変更するよう指示した。

・辺野古・大浦湾の工事現場に目を移すと、当初、2014年8~10月に実施するとしたボーリング調査は、今月、大型海底調査船「ポセイドン1」が再び19地点の掘削調査のため沖縄にやってきた。サンゴ礁地形の海底は複雑で、空港のような大型建造物に耐えられないのではないか、と言われている。埋立は中止すべきだ。

・沖縄防衛局が行っている埋め立て工事は、K9の仮設護岸約100ｍと辺野古側の浜での仮設道路建設。本格的な埋立てに入るには大幅な工法等の変更があるため、沖縄県との協議・許可が不可欠となる。県民民意を背景とした名護市、沖縄県の行政の壁が立ちはだかっている。

・ゲート前と海上での連日の抗議行動はボディブローのように、防衛局の埋立工事の動きを規制している。日本政府・防衛局が基地建設を軌道に乗せるための方法は、名護市・沖縄県を協力の立場に変え、現場の運動を止めさせることだが、不可能だ。現地の運動は勝つまで止めない。

②日本政府ー支持率低下による政権基盤の弱体化

・辺野古唯一で強行してきた安倍の支持率低下の常態化と3選赤信号により、安倍の次の政府が辺野古をどうするのか、ということが焦点として浮上してきた。民進党の前原は、安倍の次の受け皿として、日米一体派の利益を代表して名乗りを上げた。アメリカに追従し、アメリカの軍事的経済的利益を代弁することにより国内の支配基盤を守ろうとする勢力は政官界に根強い。

・来る衆議院総選挙で、自民、維新、公明、民進の日米一体で辺野古新基地建設を推進する勢力を追い込み、減らし、辺野古反対の勢力、少なくとも沖縄の民意に反して辺野古を強行しない勢力を増やして、国会内の力関係を変えることが辺野古阻止の大きな力になる。

③アメリカ政府ー軍産複合体と大衆の挟撃による行き詰まり

④大衆運動ー現場での熾烈な攻防

・支持率低下による政権の弱体化が進んでも、国策たる辺野古新基地建設の現場は官邸の指示により、国家権力の機構が忠実に業務を遂行しようとする。防衛省ー沖縄防衛局、警察庁ー県警、内閣府ー沖縄総合事務局、国交省ー海上保安庁、外務省ー沖縄事務所のキャリア組を中心とした幹部連は国家権力の手足として、それぞれの役割を果たすことに熱心だ。自己保身にたけた国家官僚たちに沖縄を蹂躙させてはならない。

・沖縄防衛局は、3月31日付で岩礁破砕許可期限が切れても知らん顔、名護漁協が漁業権放棄の決議をしたから申請しなくていいという理屈を発明して、県との協議を顧みることなく護岸工事、仮設道路づくりを強行している。そしてゲート前では、黄色い線から基地の中に入らないよう、ゲートで立ちふさがって工事車両の通行を妨害しないよう、ガードマンの後ろで叫んでいる。

・県警は「道交法」でゲート前の行動を取り締まることに熱心だ。些細なことでの道交法及び公防を理由とした一泊逮捕が急増している。路上に座り込んだ、ダンプに向かってプラカードをかざした、警官に唾を吐いた、警官の足にしがみついた等々、逮捕の口実はなんでもないことばかりだ。ゲート前の座り込みは県民の正当な権利だという認識を県警は持つべきだ。

・総合事務局は、歩道上に横断幕を立てるためのブロックを置いていないか、日よけパラソルの棒がブロックのビニ管に差し込まれていないか、などを見つけることに汲々としている。

・哀れな官僚たち。政権に対する忠誠を示そうと現場に圧力をかけることに熱心なあまり、本来の公務員の役割を忘れてしまっている。

・官邸の目的は、ゲート前の身を挺した非暴力抵抗闘争を骨抜きにすることだ。抵抗しない言葉だけ反対の、おとなしい行動にしてしまうことだ。しかし、沖縄の闘いには長い伝統がある。官邸の目論見は簡単にはいかない。

⑤名護市長選、県知事選、そして衆院総選挙

・稲嶺進市長の三選をかけた名護市長選挙が2018年1月28日告示、2月4日投開票で行われる。相手側は、当初候補に挙がっていた元県福祉保健部長で北部地区医師会副会長の宮里達也さんが辞退し、自民党の渡具知武豊名護市議が出る。名護市は、美謝川の切り替えや港湾での作業ヤードの設置、文化財調査など多くの行政権限を持っている。基地建設をスムーズに行うために名護市を手に入れたい日本政府は、金をばらまきながら工作に入っている。負けられない。

・県知事選挙が2018年11月にある。早いもので、前回の翁長選挙の熱狂からそろそろ3年になろうかという。辺野古NO!の民意を背景に現地の大衆運動と提携した翁長県政が存在する限り、新基地建設は簡単にいかない。日本政府は不退転の決意で新基地建設阻止を訴える翁長県政をつぶしたい。福島の佐藤知事をつぶしたような検察を使った卑劣な方法もありうるし、知事の信用失墜の手段を様々に使ってくることが考えられる。翁長知事を守り抜くことが辺野古阻止のために不可欠だ。

・沖縄選挙区の反基地の4つの議席を守り、沖縄と連帯する全国の議席を増やして、辺野古新基地撤回の勢力を拡大強化していく。

現地の不屈の運動と沖縄県、名護市の行政、そして連帯する全国・全世界の広範な人々がいれば、辺野古新基地を阻止する闘いは必ず勝利する。